

技術の変化に左右されない情報システム部門の 人材像に関する研究 ー将来にわたって活躍できる 情報システム部門の人材とはー アブストラクト

1. 研究の背景

昨今の IT 業界は、第 4 次産業革命や内閣府提唱の Society 5.0 といった変革期を迎えており、社会にもたらす影響がこれまで以上に大きくなってきている。こうした変化のなかで、情報システム部門では新たな価値を生み出す『価値創造型』業務を遂行できる人材の必要性が高まっている。一方で、事業の効率化やコスト削減などを目的とする『課題解決型』業務は継続して残り続けると考えられる。

情報システム部門に求められる役割が変わっていくなかで、本分科会メンバーは、従来の人材が将来の情報システム部門でも活躍できるのか不安を抱いていた。そこで本分科会では、将来にわたって活躍できる人材とは何かを研究することとした。

2. 研究の目的

技術や時代の変化があっても将来にわたって活躍できる情報システム部門の人材像と、その人材が身に付けるべきコアスキル・マインドを、定義することが目的である。

3. 研究のアプローチ

本分科会では、次の 3 つの仮説を立て、研究を進めた。

- (1) 求められる情報システム部門の役割は変わるが、いずれの時代であっても継続して活躍できる人材は存在する。
- (2) その人材が身に付けるべきスキル・マインドは、定義することができる。
- (3) スキル・マインドを可視化することができる。

これらの仮説に基づき 2 つのアプローチで、情報システム部門の人材に必要なスキル・マインドを抽出した。

- ・分科会参加メンバーが考える情報システム部門の課題から、その解決のためのスキル・マインド
- ・IT 技術が 10 年前と 5 年前および現在でどのように変化してきたかを踏まえて、それぞれの時代に共通して求められたスキル・マインド

さらに業態の違いによる検討も重ねたうえで、将来にわたって活躍できる情報システム部門の人材に必要なスキル・マインドを、コアスキル・マインドとして抽出した。その後、本分科会メンバーの所属企業へのアンケート調査によって、それらのコアスキル・マインドに漏れがないことを確認した。これからますます求められる『価値創造型』人材に必要な「創造力」を加えて、本分科会では『課題解決型』業務と『価値創造型』業務のいずれも遂行できる人材のコアスキル・マインドを定義した。

それらを 1 枚のパネルとしてまとめ、そのパネルの活用方法についても検討した。加えて、パネルを各社の育成施策に当てはめ、『価値創造型』人材に必要な「創造力」について、実施している企業の育成施策詳細を調査した。

4. 研究の成果

本分科会では、『課題解決型』業務と『価値創造型』業務のいずれも遂行できる人材のコアスキル・マインドとして次の 10 個を定義した。

- ・「コミュニケーション力」
- ・「俯瞰力」
- ・「向上力」
- ・「自発的に行動する力」

- ・「マネジメント力」
- ・「問題解決力・問題分析力」
- ・「本質を見抜く力」
- ・「IT 知識」
- ・「業務知識」
- ・「創造力」

また、コアスキル・マインドを支える土台として、「仕事を楽しむ」を加えた。

本分科会では活用方法を想定しながら、定義した 10 個のコアスキル・マインドの可視化に取り組み、図 1 の CSM パネル (Core Skills and core Minds パネル) を考案した。CSM パネルは、実用的なツールとなるよう、視覚的にわかりやすいシンプルな構成とした。コアスキル・マインドを左から右へ、基礎となる能力から複合的な能力の順に配置しており、身に付けるべきコアスキル・マインドを表現した。また「仕事を楽しむ」は、その土台となるものと考え、CSM パネルの背景に配置した。

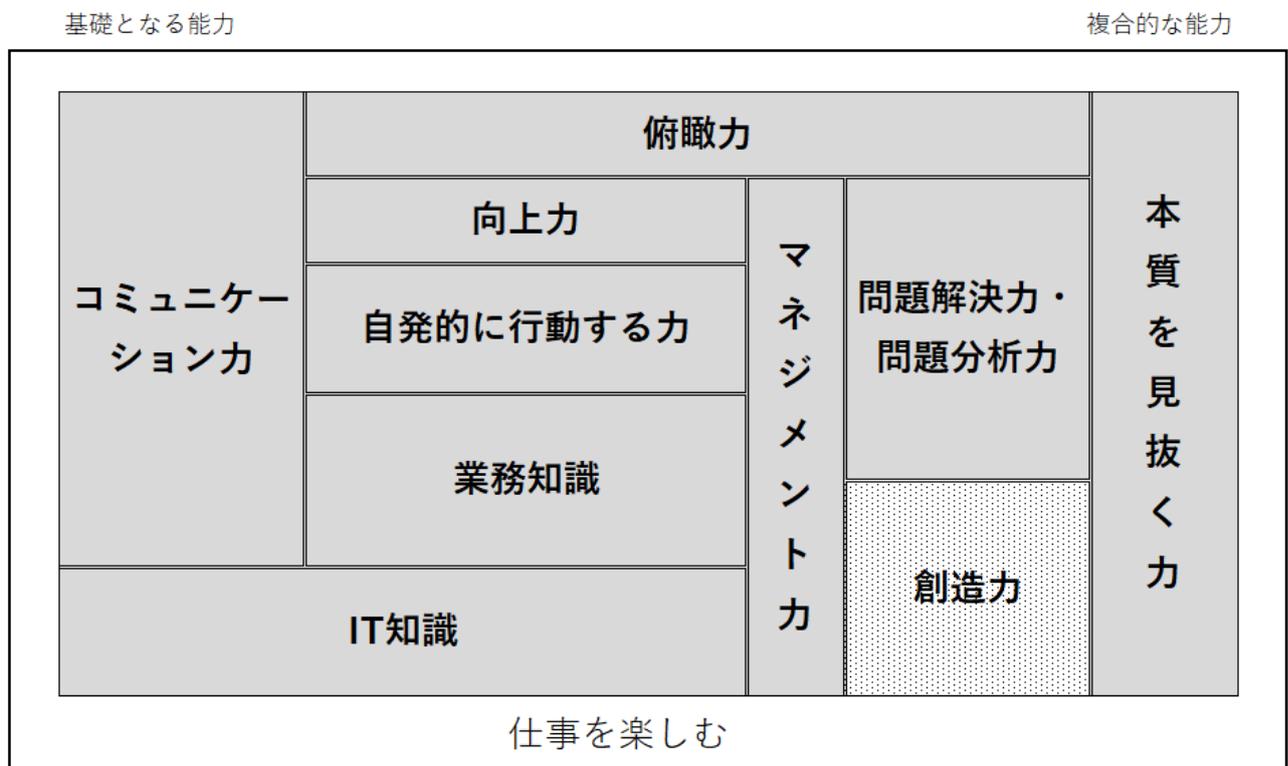


図 1 CSM パネル (Core Skills and core Minds パネル)

考案した CSM パネルの活用例を示し、別途、CSM パネルをスキル評価に活用するツールとして提供した。さらに「創造力」について、本分科会メンバーの所属企業で実施している育成施策詳細を紹介した。

5. 総括

これからも情報システム部門の役割とその人材に求められることは変わっていくが、本分科会で定義した 10 個のコアスキル・マインドは変化せず、継続して CSM パネルを活用できると考えている。技術や時代の変化とともに CSM パネルを構成する要素を加えたり、重要度に応じて面積を変更したり、位置を変えたりするなど CSM パネルを改修することで、将来にわたって活躍できる情報システム部門の人材に求められるスキル・マインドを柔軟に表現できる。

将来、どんな技術の変化があるか、環境がどう変わるかは想定することが難しいが、いままで身に付けたスキルが無駄になることはないだろう。必要なのはすべてのコアスキル・マインドを継続的に高めていくことと、CSM パネルに追加された新しい要素をなるべく早く身に付けて、将来の情報システム部門で活躍できる人材になることである。そのために個人・組織で CSM パネルを活用していただきたい。